

カレッジ・ソングOne Purpose Doshisha
—歌詞を味わい共に歌おう—

講演	押本 年真【おしもと・としまさ】
講師紹介	同志社大学名誉教授

同志社カレッジ・ソング。この歌は、入学されて日が浅い方でも、かなり親しんで歌える人も多いと思います。この歌がどういう内容の歌か、実際皆さんはあまりよくわかりではないかもしれませんが、それは、必ずしも今の学生の皆さんが、ということではなくて、時流もあると思います。今日はカレッジ・ソングの内容を理解していただくためにお話しをしたいと思います。それでは一度、カレッジ・ソングを聴いてみましょう。同志社大学グリークラブが歌っています。

正式には同志社カレッジ・ソングと言います。よくOne Purposeを歌おうと言いますが、これは愛称です。

入学式以来、何度もお聴きになったと思いますし、法人同志社系列の学校から進学された方はその時点からこの歌によく親しんでおられると思います。

「同志社大学歌」という歌もあります。作詞は、北原白秋、作曲は、山田耕作という往年の豪華名コンビによる歌です。「青空に近く／神を想う瞳（ひとみ）」。日本語で、これはこれでよい歌だと思いますが、これをちゃんと覚えて歌える人は少ないようでありまして、同志社カレッジ・ソングの方が大変親しまれていると思います。同志社のいろいろなサークルをはじめ、スポーツイベントのときだとか、行事のときにも、実によく奏でられたり、歌われたりしております。卒業生もそうですし、それからサークルやゼミの集まりで、この同志社カレッジ・ソングを歌おうと誰かが音頭をとってということはよくありますし、もう卒業して20年、30年たったような校友たちが集まったとき、たとえば、私も、卒業した高校と、その近辺から同志社大学で学んだ人びとの輪にたまに呼ばれて行きますが、もう卒業して40年ぐらい経っている人でもこの歌を歌います。とても親しまれているなと思います。

この歌につきましては、同志社のなかで非常に親しまれていて、いろいろな面白いエピソードがあるので、多くの方が、話されたりしています。また、『One Purpose』という刊行物、ご存じですか。今日は一部持参しました。これは、この4月に出版した『One Purpose』です。京田辺校地に勤務されておられます伊東恵司さんという、グリークラブOBの方が、同志社カレッジ・ソングについて文章を書いておられます（170号 2012年4月発行）。

同志社カレッジ・ソング
は英語の歌詞

同志社カレッジ・ソングは非常に多くの人に歌われていますが、歌詞の意味など本当にどこまで理解されているのかなと思うことがあります。なぜかという、実は、この歌詞をさっと全部一読すること自体難しいと思っているからです。その難しさはなぜか、後で述べます。考えてみれば、学校の歌が英語の歌であるというのは非常に珍しく稀有なことだと思います。立教大学は、応援歌に英語の歌がありますが、日本の大学の校歌の多くは当然ながら日本語です。たとえば早稲田大学の「都の西北・・・」で始まります歌や、明治大学の「白雲なびく駿河台・・・」で始まる校歌などは、一回聴いたら、大体何を歌っているかすぐにわかりますが、同志社カレッジ・ソングはそうではない部分があると思いますので、その点について述べてみたいと思います。

本日は、カレッジ・ソングはどうしてできたか。誰が作ったか。これについてお話しします。今までに、カレッジ・ソングにつきましては、多くの方が述べておられますので、調べる気持ちがあればいくらでもそれに答えることができると思いますが、私はもう少し別の面に焦点を当ててみようと思います。こういうことが皆さんの参考になるかもしれないと思ったのは、かつてはたとえば神学部の変藤彰先生や、経済学部の渋谷昭彦先生は、グリークラブのOBなので、歌詞の意味と歌い方について両方とも熱心に後輩の学生に伝えておられたと思いますし、私がこの大学に勤めはじめた頃には、外国語教育の一環で、先生が、同志社カレッジ・ソングの歌の背景や歌詞の意味も述べておられたりしたことがあります。私より年配で、もうご退職された先生で「英語のクラスで順調に進んでいるときは、時々、カレッジ・ソングのことについて触れるんだよ」と言っておられたのですが、現在ではそういう側面は、やや薄くなってきたかなと思います。そこで今日は多少ともお話をしてみようと思います。

同志社大学は1875年11月29日に同志社英学校という名前で創立されました。祈りによって、極めて少数の教師と生徒によって同志社は創設されたわけです。その後、しばらくの間、同志社では校歌にあたるものがなかったという文書には書いてあります。では、何を歌っていたかということ、讃美歌を歌っていたと推測されています。これは、どの程度受け継いでいるのかわかりませんが、同志社大学の入学式や卒業式の式次第を見ますと、実に教会の礼拝の順序に似ているのです。

W・M・ヴォーリス

ところが20世紀になりまして音楽好きの学生たち、特にそのなかでも、片桐哲先生という、同志社大学グリークラブの創立に貢献された初代顧問、後に第2代同志社女子大学長になられた人ですが、この方が同志社にも校歌にあたる歌がほしいと言われたところ、紹介されたのがW・M・ヴォーリスという人です。当時、ヴォーリスは滋賀県近江八幡市に住み、京都ではその当時、京都YMCAなどの建築設計の監督の仕事をしていました。ヴォーリスは、日本に来る前から同志社という学校が京都にあるということを知っており、非常に興味をもっていただようです。

この同志社カレッジ・ソングの作詞者、W・M・ヴォーリスという人は、どういう人なのかということを書いておきましょう。ヴォーリスは1880年、アメリカのカンザス州というところに生まれて、コロラド大学で勉強していました。最初は建築家を志望して勉強していたのですが、後に文系課程の勉強に転じています。したがって、正式な建築学を全部学ばれたというわけではないようです。この方は、学生時代からキリスト教の伝道ということに、非常に関心をもっていて、いつかは外国に行って、キリスト教を伝えたいと思っていました。

1905年、ヴォーリスは来日します。滋賀県近江八幡の滋賀県立商業学校（現在の滋賀県立八幡商業高等学校）で外国人英語科教師として採用されました。当時、日本にキリスト教を伝えようと思ってやってくる人は牧師、宣教師としての資格をもった、あるいはそういう訓練を大学で受けて来られた方が多いのに対して、ヴォーリスの生き方の一つの特徴は、自分の基本的な生活は必ずしも宗教家としてではなくて、いわゆる普通の仕事、世俗の仕事をやって自分の生活を支えながら、しかしキリスト教を広めようという働きをしていたということです。日本に来る際は、アメリカのYMCAが推薦したようです。

当時よくみられるケースですが、近江八幡で熱心に教えているうちに、キリスト教のことも教えたいと思って、聖書を教えてしまう。するとそれに非常に影響を受ける若者がでてきます。そうすると、具合が悪い。聖書のことやキリスト教のことを公立学校で教えることは禁止されている。そういう行動をするとは、けしからん教師だという理由で、2年ほどで学校をクビになってしまいます。それでもまだ、滋賀県の真ん中あたりに住んでいました。彼の影響を受けた教え子が協力者として生活できるように援助していたのです。

ヴォーリスはその後、実にいろいろなことをやって生きていきます。先ほと言いましたように、建築設計を手がけるようになりました。同志社大学にも彼の設計による建物が4つあります。アーモスト館・啓明館・新島遺品庫・致遠館です。関西学院大学では、第4代の院長ベーツ氏と非常に親しかったこともあり多くの建築を手がけました。神戸女学院大学にも、彼の設計の建物が多い。京都市四条にある中華料理のレストラン東華菜館も、ヴォーリスの建築です。

ところが、彼にはまた別の面がありました。皆さん、メンソレータム（現在商標メンターム）という薬をご存じですか。皮膚に使う塗り薬です。その薬の日本での販売独占権を得まして、日本でメンソレータムを売る事業をする会社を創立しました。株式会社近江兄弟社です。また、結婚されたお連れ合いの柳満喜子さんとともに、教育事業も精を出されまして、学校法人近江兄弟社学園をつくっておられます。この学校からは、キリスト教教育・英語教育のもと、多くの卒業生を輩出されていることはご存じの方も多いと思います。

作詞家

W・M・ヴォーリスと

作曲家C・ウィルヘルム

そして同志社をはじめ、京都大学などでも依頼があれば、教鞭もとっていました。当時教員であったシドニー・ギューリックという宣教師から、同志社の学生が校歌にあたる歌を望んでいるので作詞をしてほしいかと依頼され、作詞をしました。なぜ彼に作詞を頼んだかということ、実はヴォーリスは詩も書ける人であって、それまでもアメリカの雑誌に詩を投稿して、それが何度も載ったようなことがあったからです。1908年に、讃美歌をつくっておられます。讃美歌236番です（作詞・作曲）。これは「神の国」と日本語に訳されているものと「平和」と訳されているものと二つあるようです。「Let there be light, Lord God of Hosts」。万軍の主なる神、光をあたらしめたまえという意味です。1番と4番の日本語訳を紹介します。1番「地の上にまことの／さとりはひらけて／ひとをばあいする／おもいもさかえよ」。4番「いくさをなげうち／みわざにいそしみ／みかみのみやこを／さずかしめたまえ」。非常に平和主義の歌だと思います。こういう讃美歌の作詞などもされていたので、同志社のカレッジ・ソングの作詞を頼まれたのではないのでしょうか。

次に同志社カレッジ・ソングのメロディー、作曲者についてお話しします。これについてはいろいろ誤解もあります。作曲者はカール・ウィルヘルム。19世紀のドイツの人です。この同志社カレッジ・ソングには、実は別の歌のメロディーがそのまま使われています。日本語に訳しますと「ラインの守り」という歌がありまして、1840年に作詞されて1854年にウィルヘルムが作曲しました。よく歌われている曲です。特に高校の世界史でも少し出てきますが、フランスとドイツの関係が悪化し、1870年に争うころには、ドイツ側の人びとは、これを流して国歌のような気持ちで歌っていたようです。

メロディーについての

誤解

同志社のカレッジ・ソングは、ナチスの歌のメロディーではないかと言われることがあります。なぜそう言われるようになったかという『カサブランカ』というアメリカの映画（1942年）によるものです。ナチスドイツがフランスにも勢力を拡げていた時代です。そのファシズムから逃げようと思う人が出てきます。フランスから一番逃げやすいのはスベ

イン、ポルトガルあたりですが、すでに当時、ポルトガルもほとんどドイツの影響下にありました。そうしますと次は、アフリカ大陸の北西部、モロッコの中で一番大きな街であるカサブランカというところに、ナチスの好ましくない政治から逃れたいと思う人たちがたくさん来た。そうするとその人たちをまた監視するドイツ人が来る。また、他国に逃れたいという人たちを利用する、したたかな連中もたくさんいる。そういう背景のなかで、二人の男と一人の女性との非常にドラマチックな三角関係の物語が展開されていく映画です。舞台となる酒場で、ドイツの兵士たちが、同志社カレッジ・ソングと同じメロディーに合わせて「ラインの守り」を歌うわけです。しかしその酒場にはナチスドイツを快く思っていないフランス系の人のほうが多くいて、その場で今度は「ラ・マルセイユ」、フランス国歌を歌いだし、結局ドイツの兵士たちは黙ってしまうという場面があり、話は進んでいきます。

この「ラインの守り」のメロディーは、同志社の人たちからすると、カレッジ・ソングと同じだと思うでしょう。しかし決してこの同志社カレッジ・ソングはナチスの歌ではありません。誤解をしないようにしてください。当時、第二次世界大戦時は英語の歌だということもありますし、キリスト教主義だということもありますし、メロディーが「ラインの守り」とそっくりですので、どうも歌われなかった時があったようです。同志社大学歌のほうが、もっぱら歌われた時期があったようです。

さらに申し上げますと、この「One Purpose」、同志社カレッジ・ソングのほかに、アメリカの有名なイエール大学もこのメロディーを使っているのだそうです。戦中は、そんな状況だったので、この歌をあまり歌ってはいけなような雰囲気が同志社のなかにもありました。文献で調べたわけではなく、噂話として学生時代聞いたことがあります。第二次世界大戦が終わった昭和21年頃、今出川キャンパスと御所のあたり、同志社の学生がもう歌ってもいいんだと思い、カレッジ・ソングを歌ったら、ジープで通り過ぎたアメリカの兵隊が、とんでもない歌を歌っているといってジープを停めて「何を歌っているんだ」と怒られたという経験をした人がいるということです。文献では残ってはいない。そんなエピソードもある歌です。その後、同志社カレッジ・ソングは歌えるようになって親しまれていくわけですが、現在の日本の若い人びとにとってカレッジ・ソングには若干、親しみにくい点があるかと思うしますので、少しご説明をいたします。

若干の親しみにくさの

理由

同志社カレッジ・ソングは非常にたくさんの人が歌うのに、この歌はもうひとつ親しみにくいというか、よくわからないという人がいます。その理由は三つあると思います。その理由の一番目は、今では使われない英語の古い単語が使われている。三回生で英語が非常によくできる学生でも、これを一読して全部理解するのはちょっと無理ではないかなと思います。大部分の人にとっては結構わかりにくいところもある歌詞です。二番目は、後で例を挙げますが、伝統的な英語の歌や詩では、韻を踏みます。行の末尾で韻を踏みます。この同志社カレッジ・ソングは典型的な韻を踏んでいる歌です。そこをよく理解していかなければいけませんし、韻を踏むということは、普通の英語の一番標準的なものとは違う順番で言葉が出てくるところがあるということ。英語教師的に言えば倒置構文です。普通なら英語は主語があって動詞があって、目的語や補語がくるのが普通で、それだと我々は一番わかりやすい。ところがおよそ順番が逆なところがあります。それを、あ、そうかと気付けばそれほどむずかしくはありません。三番目は聖書に基づく表現があること。これはそれほどわかりにくくはないかもしれませんが、同志社カレッジ・ソングがわかるようでもうひとつわからないという人がおられるのは、この三つの理由によるところだと思います。また、同志社カレッジ・ソングには、同志社女子大学でアメリカ文学・比較文学を教えられ、学長をされていた児玉美英先生の日本語訳がございしますが、これも現代の若い人にとっては、もう少し別の日本語訳のほうがよいのかもしれない。

では、歌詞を見てみましょう（資料1）。同志社カレッジ・ソングはどういう歌かという、同志社で学んでもう卒業間近、あるいは卒業した人が母校である同志社を想って、学校を母親のように思い、ある意味で非常に擬人化された、組織をまるで人のようにとらえる考え方ですが、同志社に対して呼びかけています。ある部分では、自分たちはこう生きていきますよというような一種の決意を表していると思われるところがあります。歌詞について説明して、こういうことを考えて理解していただいて歌ったらどうかということをやっています。

韻を踏むわけですが、1行末、thy nameそして2行末、aimです。したがってnameとaimが[ein]という発音で、韻を踏んでおります。次、3行末handと4行末Landが、[ænd]と言う発音で韻を踏んでいます。英語で韻を踏むというのは前の子音は別で後の母音が同じというのが韻です。5行末thineと6行末vineこれも同様です。したがって、英語の韻を踏む場合、1行目と2行目が仮にaa、3行目と4行目がbb、5行目と6行目がcc、このように韻を踏んでいるということになります。これを意識して歌うことが大切です。

もちろんこの韻を踏むということは、現代の英語の詩ではあまり守られませんが、ある時代までは非常によく守られました。また、中国の漢詩、これも韻を踏みます。日本人は漢詩を読む場合に漢文式に読んでもまいますけれども、実際に中国語で読まれるのを聞くと、非常に美しい韻を踏んでおります。韻のことについて言えば、たとえば、これはよく聞かれると思います。讃美歌でもありますが「Amazing Grace」。現在の『讃美歌21』という讃美歌集のなかでは451番です。これはよくご存じだと思います。1行目と3行目、2行目と4行目と、奇数行と偶数行が韻を踏んでいます（資料2）。

あるいは皆さんよく知っておられるかもしれない、エリザベス朝のころからずっと歌われている歌で、「Greensleeves」これも規則的に韻を踏んでいます（資料3）。

もちろん日本の詩歌でも韻を踏む作品があるのはご存じだと思います。島崎藤村の「古語なる古城のほどり／雲白く／遊子悲しむ」は「こ」とか「力行」の音をよく使っていますし、万葉集の柿本人麻呂の歌の「淡海／夕波千鳥／汝（な）が鳴けば／心もしの／いにしへ／思ほゆ」。これは「み」で韻を踏むのだですね、こういうように日本語にも韻があります。ただ日本語では、むしろ言葉の最初で韻を合わせる頭韻が比較的多いかもしれません。こういうことを理解して歌われることが第一です。それから英語の歌ですから、やはり抑揚のところ、アクセント、言葉のストレスに気をつけて歌われたほうがよいと思います。

では歌詞についての説明をしておきましょう。1番と2番を説明して、それから最近よく歌われる4番の最初を説明すれば、あとは皆さんで英語をご覧になってわかんと思います。1番の最初「One purpose, Doshisha」ここは呼びかけだと思います。卒業生とか、まさに卒業しようとする人が、母校同志社に呼びかけているのだと思います。同志社、同志社という名前の学校よ、あなたの名前はOne purposeを意味しますということです。同志社大学というのとは現在ではかなりの知名度の学校なので、誰も不思議に思わないのですが、実は同志社は、非常に変わった学校の名前です。一体どういうことか。それは、同じ考え、同じ志をもった人が集まる学園を意味します。何が同じかというと、具体的に言えば、創立者の新島襄、それから協力者の山本覚馬。山本覚馬はもともと会津の人ですが、幕末に京都にやってきて仕事をされ、それから京都府の顧問もされました。それから記念館として、京田辺キャンパスの体育館に名前が残っています、デヴィス。この3人が中心になって、キリスト教主義を基本にした、同じ考えの人が集まった学校をつくろう、そういう意味なのです。そして、「社」というのは、現在では会社の「社」ばかりが連想されますが、もともとは同じ考えをもった人が集まる団体。自由民権運動などで、明治のはじめ、立志社という政治的な団体がありました。「社」。これはそういう意味です。あるいは日本国憲法でいう「結社」、これもそういう意味です。

ほかの大学の名前を考えてもらとう、大体2、3種類に分かれると思います。一つは創立された時代を表しているものが結構あります。有名なのは、慶応義塾大学・明治大学・大正大学などがあります。私立大学の場合は、地域、地方を表すものも多いです。日本大学・東洋大学・関西大学。それから稀に、うちの学校は主にこれを研究するのだということを明確に表す法政大学や、日本の歴史、日本の文化、神道を中心に勉強する國學院大学。東京理科大学などの、理科系の大学や、医科系の大学などです。稀に創立者の名前を考えているものがあります。有名なのが津田塾大学です。こういうことから、同志社という言葉のもつ意味も一度よく考えていただきたいと思います。

歌詞の説明にもどります。thy nameいきなりthyが出てきます。ほとんどの人がこれは、初めて見る単語だと思います、thyはyourにあたる古い時代の英単語です。君の、あなたの、と言う意味で、現在では方言、あるいは特別な場合にしか使いません。ただし、シェイクスピアの原典だったらthy name is womanなどは、いくらでも出てきますし、宗教的な文章ではthyは比較的近年まで使われていました。学内で、配布している聖書のなかにも、最近までは、このthyが、英訳表記として出ていました。

その次のDoth signifyでsignifyはわかんと思いますが、このDothですが、現在で言えばDoesです。ですから、その名前を強調しているのです。Doesにあたるどころ、誰がこの窓を割ったのか。Tom did break the window. ジョンでもボブでもない、トムが割ったというわけです。She does run 5 kilometers every day.彼女は毎日5kmも走りますというように、強める場合に使います。ですから同志社という名前は、非常に気高い目標を意味していることを強調した表現です。セミコロンがありまして、すなわちone lofty aim;というのは何かというと、To train thy sons同志社は一つの目的をもつ学校で、何をするかというと、sonsを訓練し育てる。この場合のsonsは母なる学校の息子たち、すなわち学生です。heart and handはわかるようでわかりにくいかもしれませんが。精神的な側面と同時に、handsはskillあるいは、practicalな知識や技術と言いますが、そういったものをさします。同志社という学校で、精神的・人格的な教育をすることが大きな目標かもしれないけれども、それだけでは現実には卒業して働くことはできない。やはり学校では、手に職をつけることも教えるべきではないか。このあたりに、建築家ヴォーリス、実業家ヴォーリスの考え方が出ているなど、私は思います。ヴォーリスは、実は近江兄弟社学園に関連する歌もつくっており、そこでもhearts and handsという表現をされています。同志社というのは、一つの気高い理想を示すので、それは学生を精神面と実際の知識と、現実の世を生きていくうえで必要な知識の面で訓練をする。何のために訓練するか。次に、英語教師的に言うと、やや副詞的用法というものでその意味が記されていると思います。

何のために学生を訓練し育てるか、To live for God and Native Land神として国のために生きるように、というわけです。そしてそのあとは、Dear Alma Mater, Alma Materはご存じかもしれませんが、これは母校といって、ラテン語がそのまま英語に入ってしまっている例です。現在の英英辞典によりますと自分が属している出身大学、学校、カレッジと出てもいいです。日本語の母校という言い方はAlma Materを訳した言葉です。母校とか、あるいは何隻もの船がグループで行って一番中心の船をmother ship母船と言います。それからこれはクリスチャンの人でないとほとんどわからないと思いますが、母教会という言い方があります。個人が、クリスチャンとしてしっかりした考えをもって洗礼を受けた教会という意味ですが、こういうようなものは全部ここからきています。

葡萄（ぶどう）の木と枝

歌詞に戻ります。親愛なる母校よ、sons of thineこのthineはさきほどのthyと同じ、今度はyoursにあたります。あなたの学生は、Shall be as branches to the vine;葡萄（ぶどう）の木の枝のように同志社という学校から卒業して行って、幹から枝が広がっていくかのようにあちこちに広がっていくでしょう、ということです。なぜ葡萄が出てくるのかというと、これは新約聖書のヨハネによる福音書の15章の1節から5節、あるいはもう少しあのほうにまで関係をしております。

葡萄の木、葡萄園というのは聖書には実にたくさん出てきますが、ここでの葡萄の木、ヨハネによる福音書のなかではそれをイエス・キリストだと思ったらよいと思います。聖書を途中までも読んでみます。「わたしはまことのぶどうの木、私の父は農夫である。わたしにつながっていないが、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。わたしにつながっていない。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない」（15章1―4節）。私の教えをずっと覚えて、それに従って生きてほしい。私につながっていない。ということです。カレッジ・ソングに重ねると、同志社で学んだものを忘れないで、卒業してもどこかでつながっていてほしいということになります。なぜ葡萄の木が急に出てくるのかと思われる人が多いと思いますが、この新約聖書の部分に基づいているからなので

す。そして1番の最後ですが、Tho' through行の最初でThoughからはじめると長くなるためThoughの省略形を使っています。Tho' through the world we wander far and wide,そして私たちは学校を卒業したならば、広く遠く、世界の各地に出て行き、いろいろなところで活躍するとしても、ということです。

8行目のStill in our hearts thy precepts shall abide!あなたが教えてくださったことが私たち心のなかにずっと残っていくことでしょう。となります。このshallの意味に触れると長くなりますが、ここでは、単なる未来形ではなく、きつこうなるという予言、運命を表す用法だというだけにしておきましょう。

同じような要領で2番も見ますと、We came to Doshisha to find/The broader culture of the mind;/We tarried here to learn anew/The value of a purpose true;/1行目と2行目、3行目と4行目、それぞれ韻を踏んでおります。私たちは同志社に来了。より広いcultureを見出すために。このcultureには、実にいろいろな意味があるし、簡単には訳せない。ここでは心の糧、あるいは広い意味で教養、ただ何かの資格を取るためだけだとか、そういう勉強だけではないものを見出すために同志社にきたということです。そしてWe tarriedここですとどまった、ここで学ぶためにとどまった。何を学ぶためにとどまったかという、learnの目的語はほとんどの人がお気づきでしょう、the valueですね。To learn the value of a purpose trueです。これも、a purpose trueは、もうわかりになったでしょう、韻を踏んでいるからこの語順なので、普通は、a true purposeです。人生を生きる本当の目的は何か、ということ学ぶために同志社

に来了ということです。Dear Alma Materはまた親愛なる母校よ。次はちょっとわかりにくいといえわかりにくいです。ours the part oursとpartの間be動詞が省略されている。ours the part/To face the future staunch of heart,の部分は、しっかりとした心で我々の未来に対して勇敢に、力強く向き合うというのが私たちの果たすべき役割である。thouは今の二人称で言えばyouそして2番の7行目のthou hast taught, hastは、現在の英語で言えばhaveです。従って7行目は、Since thou hast taught us with high aim to standとなります。あなたは私たちに高い目標を教えてくださいました。to standはわかりにくいです。ある姿勢をもって、ある価値観をもって存在する。生きていくということです。

4番は作詞者のヴォーリズが平和主義者で、4番をできたら歌ってほしいと、第二次世界大戦が終わってから言われたそうで、最近よく歌われます。最初の方だけわかりにくい。We've learned the oneness of our Earth;世界、地球は一つであること、日本がどうだ、他の国がどうだ、そういうことをよく言うわけですが、私たちはこの地球上が一つであることを学んだ。我々が生まれた自分の国よりもっと大きい、もっと広い世界。今で言うグローバルな地球というものを学んだ。we find The love and service of mankind.我々は、愛することと人類に仕えること、serviceそれは自己愛というものよりもずっと高尚なものである。こういう意味でしょう。それ以外は、4番はわかりやすいと思います。少し古い言葉はこんな意味をもっているということを押さえてから、慣れていくと、普通の英語で使う語順とは少し違うところも、わかるようになってと思います。私の説明が、どの程度皆さんの役に立ったかはわかりませんが、カレッジ・ソングの歌詞には以上のような意味が含まれているということもおさえて、折々にこのカレッジ・ソングを歌ってみたいと思います。

あともう一つ、お話しします。1番目の後ろの方にあります、We wanderはあちこちにさまよい歩くというイメージですね。多くの方々は、残念なことですが、wonder [ʌ]（不思議）という単語、これだと思われているのです。この箇所の発音については、渋谷先生はグリークラブのOBですから正しく発音するようによく言われました。日本語の、あいうえおの弱いところで、たいていの人が勘違いしています。日本人の感覚だと「あ」と「お」の間ぐらい、「お」に近い。これを必ずしもちゃんと発音できていない人の方が多いと思うのですが、よく歌詞を読んで、なるべく正確な発音で歌っていただきたいと思っております。

2012年6月1日 同志社スピリット・ウィーク春学期
京田辺校地「講演」記録